



roundabout

Ver.2

ユーザマニュアル

スタートガイド

第2版

最終更新日 2011/7/12

目次

本書について.....	3
はじめに.....	5
第 1 章 コンテンツ制作方法.....	6
1-1 テンプレートの使用.....	6
1-2 キャラクタエンコーディング.....	7
1-3 ヘッダーの書き方.....	7
1-4 画像について.....	8
1-5 CSS の書き方.....	8
1-6 フォントサイズの指定.....	9
第 2 章 コンテンツ制作のポイント.....	10
2-1 テーブルの装飾.....	10
2-2 ブロック要素のフロート.....	11
(1) アイコンを使ったメニューデザイン.....	11
(2) テキストをつかったメニューデザイン.....	12
(3) デザインの出し分け.....	13
2-3 画像の周りにテキストを流し込む.....	14
2-4 iPhone 風のリスト.....	14
2-5 フォームコンポーネント(form の子要素)の調整.....	15
(1) form、input、select、textarea タグのサイズ調整.....	15
(2) ラジオボタン、チェックボックスのサイズ調整.....	16
(3) 入力モードの設定.....	17

本書について

本書はラウンドアバウトを利用したコンテンツ制作ガイドです。本書では、ラウンドアバウトのカスタマイズなしでコンテンツを作成する手順を示しています。

ラウンドアバウトの機能をカスタマイズしてより細かく作りこみたい方は、機能について詳しく書かれている、別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」を参照してください。

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2011年5月24日	初版発行
第2版	2011年7月12日	第1章 1-1 に SoftBank 端末の仕様とラウンドアバウトの動作について追記。
		文書全体の「注意」、「補足」の文言を「※」に訂正。
		第1章 1-5 に au 端末の CSS 容量制限について追記。
		タイトルをスタートアップガイドからスタートガイドに訂正。

はじめに

モバイル端末は画面のピクセル数や HTML、CSS の解釈など仕様に違いがあるので、同じコンテンツを様々なモバイル端末でみると、画像のレイアウトが崩れてしまったりフォントの大きさがバラバラになってしまったりしてしまいます。

ラウンドアバウトを通すと、ラウンドアバウトがモバイル端末の仕様の違いを吸収してくれるので、下(図 1)のように同じようなデザインにすることが出来ます。

図 1 ラウンドアバウトありのコンテンツ



このようなラウンドアバウトを使ったコンテンツをつくるための手順を、次の章以降で説明します。

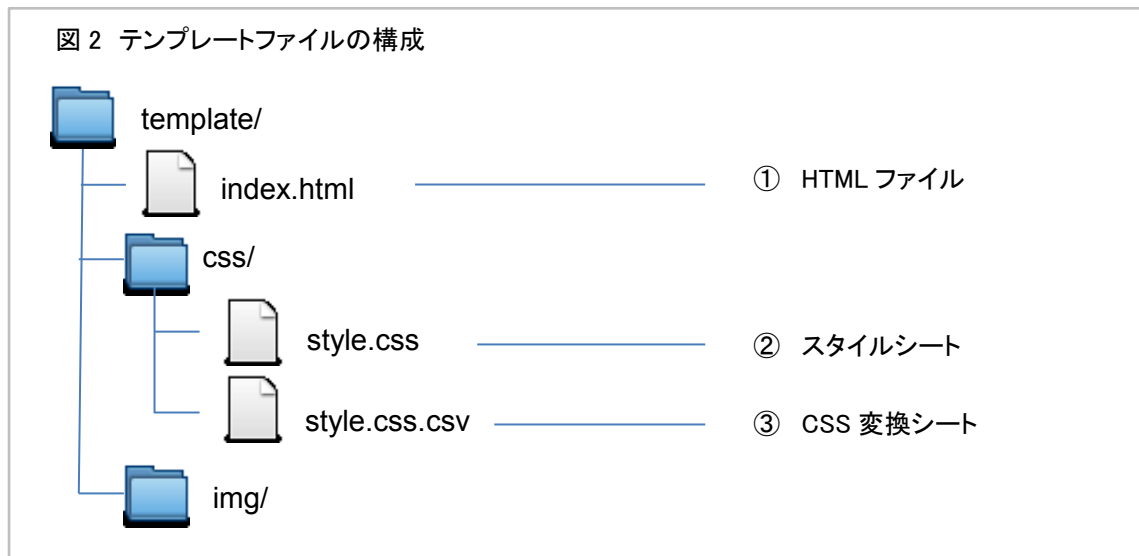
第 1 章 コンテンツ制作方法

ラウンドアバウトを使ったスマートフォン基準のコンテンツ制作方法を簡単に説明します。

1-1 テンプレートの使用

ラウンドアバウト 2 にはスマートフォンベースを想定したサンプルコンテンツがデフォルトで提供され、これをテンプレートとしています。コンテンツ制作にはこのテンプレートを使用します。

※ 初期出荷状態では「はじめに」で紹介したコンテンツが入っています。



① index.html・・・ラウンドアバウトでのモバイルコンテンツ制作に必要なヘッダー情報が入っています
([1-3 項参照](#))。

※ 初期出荷状態では「はじめに」で紹介したサンプルコンテンツが入っています。

② style.css・・・タグのデザインを初期化するリセット情報と、コンテンツ制作をしやすくするためのクラスが入っています。スタイルシート内は reset, radio,checkbox size などのコメントで分かれていますので、各コメント内にどのようなスタイルが入っているのか説明します。

- ・ reset ... デザインを初期化するためにはいています。reset を追加するときは、タイプセレクトにプロパティを複数書かないで 1 つずつ書くようにします。
- ・ radio,checkbox size ... ラジオボタンとチェックボックスをタップしやすくするために入っているスマートフォン向けのサイズ調整です。調整が必要な場合は自由に変更して下さい。([2-5 項参照](#))
- ・ smartphone style list ... iPhone 風の矢印つきリストを簡単に作るためのクラスが用意されています。

す。(2-4 項参照) 調整が必要な場合は自由に変更しても構いませんが、CSS 変換シートと連動しているのでセレクト名は変更しないようにします。

- ・ main …コンテンツに対してのスタイルを自由にかきます。

※初期出荷状態では「はじめに」で紹介したサンプルコンテンツが入っています。

- ③ style.css.csv…ラウンドアバウトのスタイル変換機能である CSS 変換シートです。CSS ファイルと連動して動作し、フォントとラジオボタンとチェックボックス、矢印つきリストのサイズ調整が初期出荷状態で入っています。CSS 変換シートを使うことで、フォントサイズなどが端末ごとの最適な大きさに調整できます。

[参照] CSS 変換シートのカスタマイズについて、詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 6 章 CSS 変換シートを参照してください。

※SoftBank では HTML が 48KB 以上になると HTML を一切表示することができなくなることから、roundabout では 5%の余裕を残した 45.6KB の部分でコンテンツを切り取る処理を行っています。この場合途中で切れてしまうので、コンテンツを見直して下さい。

1-2 キャラクタエンコーディング

コンテンツは UTF-8 で作成します。

※ UTF-8 以外でつくる場合はサーバの設定変更が必要になります。

[参照] 詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 9 章キャラクタエンコーディング変換を参照してください。

1-3 ヘッダの書き方

1-1 項で紹介したテンプレートの index.html にあるヘッダの内容です。VGA をベースとしたコンテンツへの対応や、スマートフォンの表示領域設定など、ラウンドアバウトを使ったサイト制作に必要な設定等が含まれています。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<?ra-page viewport="auto" image-convert="no" g="SP"?> ①
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja">
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset= UTF-8" />
<meta name="disparea" content="vga" /> ②
<title>ここにタイトルを入れてください</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="css/style.css" />
</head>

```

- ① スマートフォン用のラウンドアバウト調整機能で、ラウンドアバウトが自動で Viewport を作成します。スマートフォン以外では無視されます。
- ② iモードブラウザ 2.x 端末に VGA モードで表示させるために必要です。

[参照] ヘッダ内容について、詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス第 1 章内の HTML の記述を参照してください。

1-4 画像について

- JPEG、GIF、8 ビット PNG 形式で作成します。
JPEG は容量を気にして劣化させる必要はありませんので、品質 100% で作成します。GIF は 256 色の画像は 256 色でつくったり、16 色の画像は 16 色でつくったり、スペーサー-GIF などの簡単な画像は 1 色でつくったりと画像に最適な色数で作成します。PNG の 8 ビット以上はサポートしていません。
- 幅 480px の画面を想定してデザインします。
例えば、横幅いっぱいの画像を作りたい時は 480px 幅の画像を 1 枚用意して、横に 2 つ画像を並べたい場合は 240px 幅の画像を 2 枚用意します。
- 画像は相対パスで書きます。
画像ファイルの指定を絶対 URL ですると変換の対象にならないので、相対パスなどで書くようにしてください。

※ 画像に width,height 属性をつかった指定はしないで下さい。ただし画面幅ぴったりに表示したい場合は、width 属性で width=100% と指定することを推奨します。

[参照] 画像について、詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス第 2 章画像変換を参照してください。

1-5 CSS の書き方

- 外部 CSS ファイルに記述します。(テンプレートの style.css ファイル)
※ style 要素、style 属性は使いません。
- @規則には対応していませんので、複数のファイルを使う場合は link 要素を使って読み込みます。
- 複数クラス名の指定に対応していない端末があるので、class 属性の値は 1 つにします。

```
OK ... <div class="foo">
```

```
NG ... <div class="foo bar">
```

- 文字色・背景色・文字サイズを設定する場合は div か span 要素に、クラス名をつけて指定します。


```
<h1>
<span class="h1">色とサイズを変えます
</span>
</h1>
<div class="bg">背景色は赤です</div>
```

```
.h1 {
  color: #333;
  font-size: medium;
}
.bg { background-color : #FF0000; }
```

- テキストや画像などのアラインメントを指定する場合は div 要素に、クラス名をつけて指定します。

```
<div class="content">
このテキストはセンターです
</div>
```

```
.content {
  color: #DDD;
  text-align: center;
}
```

※auの一部端末はCSSのファイルサイズが4KBまでという制限があります。制限を超える場合はCSSファイルを出し分けてください。

[参照] 別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 7 章 CSS ファイル切り替えを参照してください。

1-6 フォントサイズの指定

各端末に最適なフォントサイズがあらかじめ指定されているので(デフォルトは x-large)、フォントサイズを変更したい箇所にだけ font-size プロパティを指定してください。

font-size プロパティは端末ごとに最適サイズに調整するため CSS 変換シートと連動しています。

CSS 変換シートにあらかじめ設定されている font-size プロパティが使用可能です。

```
《使用可能な font-size プロパティの種類》
xx-small x-small small medium large x-large xx-large
80% 100% 120%
```

[参照] 端末ごとのフォントサイズ調整など、デフォルト状態から変更する際は CSS 変換シートを編集してください(別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 6 章 CSS 変換シート)。

第 2 章 コンテンツ制作のポイント

モバイルコンテンツを作る際の基本的なデザインのポイントについて書いてあるので、コンテンツを作る際に参考にして下さい。

※ 文中に HTML やスタイルシートのソースが数か所出てきますが、一部ソースを抜粋したものになります。

2-1 テーブルの装飾

- セルの色や文字色、フォントサイズなどの調整は、th または td 要素のタイプセクタを使います。
- 端末ごとに画面解像度が違うので、セルの大きさの設定には「%」を使います。
- docomo の古い機種などでは border プロパティが効かないので、罫線を表示する場合には table 要素で border="1" を指定します。

図 3 テーブル装飾の例

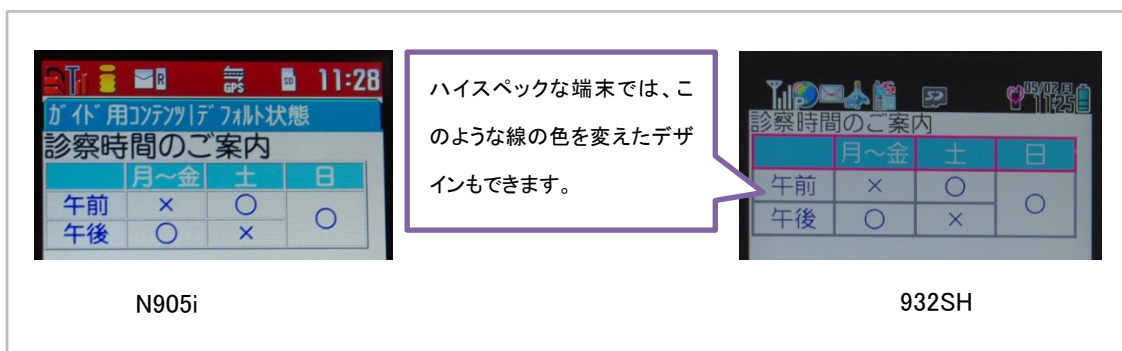


図 3 の HTML ファイル例

```
<table border="1" width="95%" cellpadding="0">
  <tr><th>&nbsp;</th><th>月～金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
  <tr><td>午前</td><td>×</td><td>○</td><td rowspan="2">○</td></tr>
  <tr><td>午後</td><td>○</td><td>×</td></tr>
</table>
```

図 3 の CSS ファイル例 ※一部プロパティを省略しています

```

th,td {
text-align:center
font-size:medium;
}
th {
width:25%;
border:4px solid #F21E8C;
background-color:#6BC6DD;
color:#FFFFFF;
}
td {
border:4px solid #999999;
color:#000099;
}
    
```

※ テーブルの入れ子はできません。

※ 古い機種では table 要素に対応していないものがあります。それらも考慮したデザインをする場合、テーブルを使わないレイアウトを考えるか、テーブルを使うものとそうでないものを出し分けます。

[参照] 出し分け方法については、別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 5 章表示コントロールを参照してください。

2-2 ブロック要素のフロート

au のすべての端末と docomo の古い端末などではブロック要素のフロートができません。その場合、table または div タグを使ったデザインをすると同じような見た目のデザインにできます。

(1) アイコンを使ったメニューデザイン

図 4 アイコンを使ったメニューデザイン例



アイコンを使ったメニューの場合は table タグを使うと同じような見た目のデザインになります。

図 5 table タグをつかった例

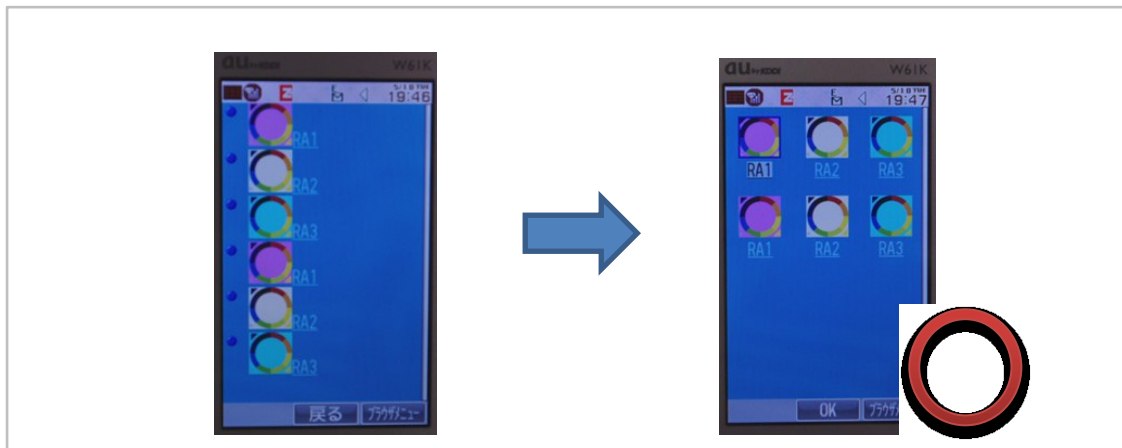


図 5 の HTML ファイル例

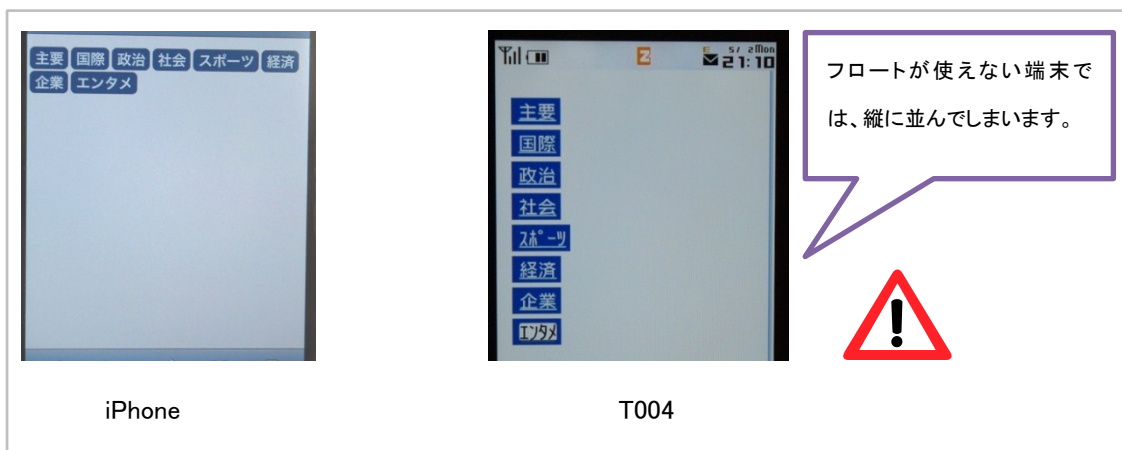
```

<table width="100%">
  <tr>
    <td width="33%">
      <a href="#">RA1</a>
    </td>
    <td width="33%">
      <a href="#">RA2</a>
    </td>
    <td>
      <a href="#">RA3</a>
    </td>
  </tr>
  ~ 中略 ~
</table>

```

(2) テキストをつかったメニューデザイン

図 6 テキストをつかったメニューデザイン例



テキストを横に並べるメニューの場合は、div タグと span タグを使うと同じような見た目になります。

図 7 div タグと span タグを使った例

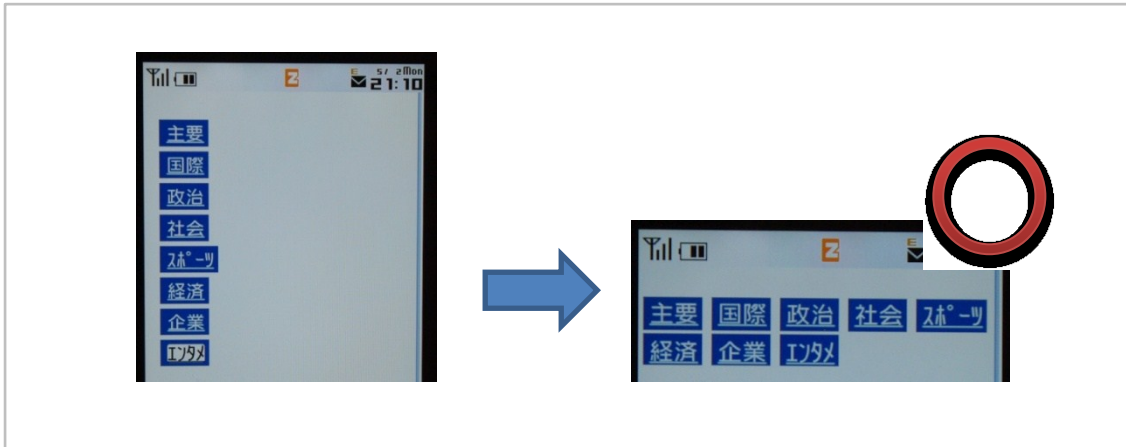


図 7 の HTML ファイル例

```
<div>
  <span class="item"><a href="#top">主要</a></span>
  <span class="item"><a href="#int">国際</a></span>
  ~ 中略 ~
</div>
```

(3) デザインの出し分け

スマートフォンなどの上位端末ではブロック要素をフロートにして、au 端末や docomo の古い端末などブロック要素のフロートが使えない端末にだけ違うデザインを出したいという場合、ラウンドアバウトの表示コントロール機能を使うとコンテンツの出し分けが出来ます。

表示コントロールを使う場合、グループを定義しているファイル(device-group.conf)にブロック要素のフロートが出来ないグループを"NOFLT"という名前前で定義しているのでそれを使います。

出し分け方法の例

```
<?ra g="!NOFLT" line="*"??>
<ul>
  <li><a href="#top">主要</a></li>
  <li><a href="#int">国際</a></li>
</ul>
<?ra break ??>

<?ra g="NOFLT" line="*"??>
<div>
  <span class="item"><a href="#top">主要</a></span><span class="item"><a href="#int">国際</a></span>
</div>
<?ra break ??>
```

ブロック要素のフロートが使える端末にはこちらを表示します。

ブロック要素のフロートが使えない端末にはこちらを表示します。

[参照] device-group.conf について、詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 4 章端末グループを参照してください。

[参照] 表示コントロールについて、詳しくは別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 5 章表示コントロールを参照してください。

2-3 画像の周りにテキストを流し込む

図 8 T004 で表示したテキスト流し込みの例



画像の周りにテキストを流し込むには、float プロパティと align 属性を併用します。float が使えない端末でも、画像の周りにテキストを流し込む場合には align 属性を指定することで同じように見せることができます。

図 8 の HTML ファイル例

```
流し込まれるテキスト……………
```

図 8 の CSS ファイル例

```
.pict01 { float:left;}
```

- class 属性は img 要素に指定し、CSS には「.クラス名」の形でクラスセレクタを使います。
- float プロパティの効かない au 用に align 属性を指定します。

2-4 iPhone 風のリスト

矢印付きの iPhone 風リストを使う場合、テンプレートに "arrow" という専用クラスが用意されているのでそれを使います。矢印付きにしたい li タグに "arrow" クラスを指定してください。

HTML ファイル例

```
<ul>
  <li class="arrow"><a href="a.html">ラウンドアバウトの特徴</a></li>
  <li class="arrow"><a href="a.html"><span class="font1">2011 年 5 月末発売予定</span><br />ラウンドアバウト 2.0 ! よりリッチに使いやすく</a></li>
</ul>
```

テンプレートの CSS 変換シートに調整された設定が入っているので、以下のようにモバイル端末で統一されたデザインになります。

図 9 iPhone 風リストの表示のされ方



2-5 フォームコンポーネント(formの子要素)の調整

(1) form、input、select、textarea タグのサイズ調整

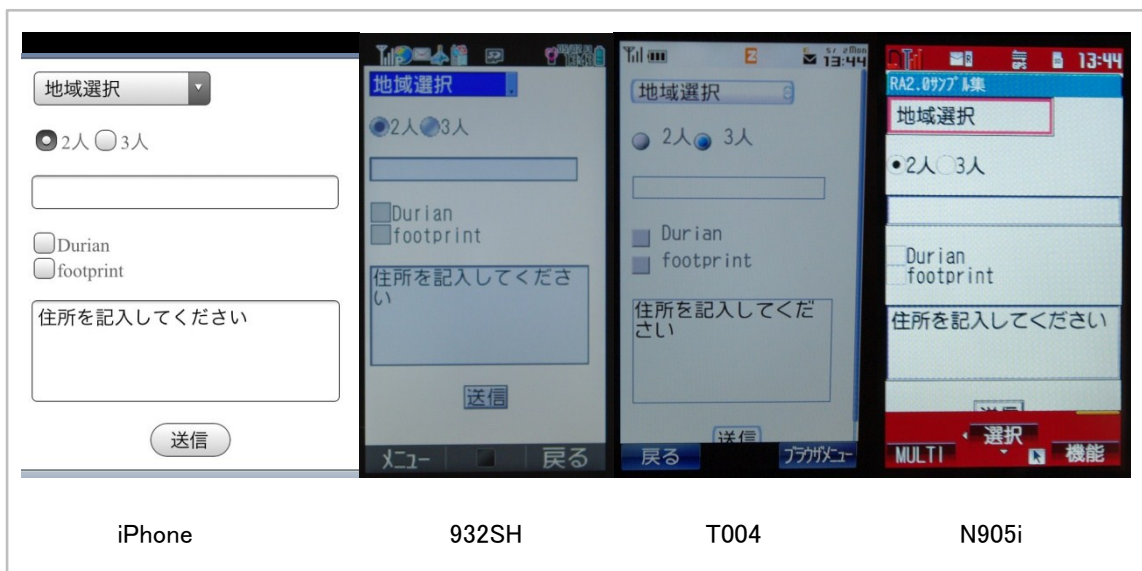
select タグを使ったフォームのサイズと input、textarea タグ内の文字サイズの変更は font-size プロパティで調整します。input タグと textarea タグの入力エリアのサイズは width、height プロパティで調整しま

す。font-size プロパティは端末ごとに調整されますが、width、height プロパティは調整されません。
 [参照] 端末ごとに width、height プロパティを調整したい場合は CSS 変換シートを編集して下さい(別紙「ラウンドアバウト 2 開発リファレンス」第 6 章 CSS 変換シート)。

CSS ファイル例

```
input {width:95%;font-size:large;}
select {font-size:large;}
textarea {width:95%;height:5em;font-size:large;}
```

図 10 フォームコンポーネントの表示のされ方



※ ドコモ 900 シリーズでは input タグや textarea タグに対しての width,height が効きません。サイズ調整が必要な場合、input タグは size 属性、textarea タグは cols(横幅)と rows(縦幅)属性の値が有効になります。

(2) ラジオボタン、チェックボックスのサイズ調整

iPhone ではラジオボタンとチェックボックスのサイズが小さいとタップしにくいことがあります。そのためテンプレートには、以下のようなボタンサイズを変える設定が入っています。

```
input[type="radio"] {height:30px; width:30px;}
input[type="checkbox"] {height:30px;width:30px;}
```

※ android 端末には効きません。

(3) 入力モードの設定

携帯の文字入力モードの指定には istyle を使います。

- ・ istyle=1(全角かな)
- ・ istyle=2(全角カナ)
- ・ istyle=3(半角英字 (小文字))
- ・ istyle=4(数字)

※ スマートフォンには効きません。